

2026 年度 一般選抜
入試問題の出題意図

桜美林大学

2026 年度 一般選抜 「英語」 出題意図

本学の建学の精神およびアドミッションポリシーを踏まえ、大学における学びに必要な英語力を備えているかを確認するために、高等学校までに学習した内容の範囲で出題します。問題は、基本的な文法および語法を理解し、運用する力を問うもの、口語的な表現を理解する力を問うもの、および比較的長い文章を、その文脈を追って理解する力を問うもので構成されています。

【文法・語法問題】

第 1 問 英語の文法・語法について、基本的な知識を習得していることを確認します。英文の空所に適語を補充する形式で出題しています。

第 2 問 英語の文法・語法および構文を理解し、運用する力を習得していることを確認します。日本文の内容を表すように、与えられた英語の語句を並べ替え、正しく自然な英文を構成する形式で出題しています。日頃から英語特有の表現法に慣れ親しんでいることが求められます。

【会話問題】

第 3 問 日常会話に用いられる口語表現を理解し、コミュニケーション的な文脈の中で内容を理解する力を習得していることを確認します。3 人以上の間で交わされる比較的長い対話文の一部を補う形式の問題、および 2 人の間で交わされる対話文の内容を問う形式の問題です。また、グラフや表、対話文といった異なる種類の情報を組み合わせた問題を出題し、実践的な運用能力も確認します。

【長文問題】

第 4 問 自然科学や様々な社会事象における、あるテーマについて述べた比較的長い英文を読み、文の流れを把握し、内容を正しく理解する力を習得していることを確認します。長文問題は 2 題あります。1 題は、英文を読んで、文脈に沿って内容を正しく理解しているかを総合的に問う形式の問題です。他の 1 題は、同じ英文を読んだ 5 人の発話に関し、それらがどのような立場で述べられたものかを判別する問題です。これにより、論理的な思考力を確認します。

2026 年度 一般選抜 「国語」 出題意図

高等学校までに培った総合力を判定することを目的として、基礎的な学力、基礎的な語彙力、読解力、思考力を問います。文章の内容を多面的、多角的な視点から解釈して、筆者が伝えようとする内容やニュアンスを的確に読み取ることができる正確な判断力を求めます。

高等学校学習指導要領を踏まえるとともに、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるような問題になっています。

大問三問の第一問では、語彙力に特化した出題としています。第二問と第三問では、近代以降の異なる分野の文章（文学的な文章や随想的な文章、論理的な文章）から出題します。

第一問【語彙力に特化した出題】

日常で使用頻度の高い基礎的な語彙を多様な角度や分野から出題しています。漢字の書き取りや読み方、四字熟語や慣用句や諺、対義語や同義語に関する問題です。

第二問、第三問【近代以降の異なる分野の文章からの出題】

文学的な文章や随想的な文章、論理的な文章を題材として出題しています。文章の流れや論理を踏まえ、空欄補充、指示語の内容を問う問題、表現の特色を問う問題、文脈を正確に読み取り、本文全体の内容を正確に理解することができる読解力を問います。

2026 年度 一般選抜 「地理」 出題意図

世界の諸課題を多面的・多角的にとらえ、自然環境の多様性と各地域の人々の生活や文化・産業などに関する理解度を確認し、地理的思考力を判断できるものとしています。また、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるような問題ともなっています。

高等学校学習指導要領に則り、日頃から高等学校で学習している知識・技能を中心とした範囲から出題し、思考力・判断力・表現力等の学力をみる内容も含まれています。

問題は 6 つの大問からなり、それぞれに小問があり合計で 40 問となっています。具体的には、世界の自然環境、資源や産業、生活や文化、つながりなどについて問う内容とし、一部の地域を取り上げた地誌の問題も含みます。教科書の内容や基本的な用語を理解できているかを確認し、地図による分布や関係性を判読する力、統計データを読み取り分析する力、データをもとにしたグラフや図表を的確に判断できる力なども確認します。

出題内容等

2 月 1 日

- 第 1 問 日本の自然環境の特色、地形図の判読など
- 第 2 問 世界の農業地域区分と農産物の特色など
- 第 3 問 エネルギー資源の産出や貿易、再生可能エネルギーの現状など
- 第 4 問 国際的分業と地域間格差、各国の貿易の特徴、経済圏など
- 第 5 問 日本の領土問題、日本を取り巻く地域の関係など
- 第 6 問 アングロアメリカの地誌

(各問のテーマに関連した事象や地域について応用力を問う問題を含むことがある)

2 月 2 日

- 第 1 問 世界の気候区分と地域の気候の特色など
- 第 2 問 世界の農業の発達と地域区分、現代の農業の課題など
- 第 3 問 世界の鉱産資源の産出や利用、現代の鉱産資源問題など
- 第 4 問 第 3 次産業の中の様々な分野や業種の特徴、地形図の判読など
- 第 5 問 世界の人々の衣食住生活など
- 第 6 問 西アジアの地誌

(各問のテーマに関連した事象や地域について応用力を問う問題を含むことがある)

2 月 3 日

- 第 1 問 地球規模の地形やその成因など
- 第 2 問 地球環境に係る現状と課題・対策など
- 第 3 問 世界の水産業と林業の現状、これらの地域的な特徴など
- 第 4 問 村落と都市の成り立ちと機能、地形図の判読など
- 第 5 問 世界の民族や宗教の分布と特徴・生活様式など
- 第 6 問 東アジアの地誌

(各問のテーマに関連した事象や地域について応用力を問う問題を含むことがある)

2 月 4 日

- 第 1 問 気候の成り立ちと世界各地の気候の特徴など
- 第 2 問 工業の立地と新たな工業の発展と課題、地形図の判読など
- 第 3 問 世界を結ぶ交通の特色、通信の発達と現状など
- 第 4 問 人口の推移と特徴、世界の人口問題と現状など
- 第 5 問 国家の領域と類型、国際連合の役割と課題など
- 第 6 問 ロシアと周辺諸国の地誌

(各問のテーマに関連した事象や地域について応用力を問う問題を含むことがある)

2026 年度 一般選抜 「日本史」 出題意図

我が国の歴史の展開についての理解度や歴史的思考力を判断する内容を基準として、入学前に身につけてきた学力および本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるような問題となっています。具体的には、高等学校学習指導要領の内容を踏まえ、日頃から高等学校で学習している知識・技能を中心とした範囲から出題し、思考力・判断力・表現力等の学力をみる内容も含まれるように配慮しています。

問題は 5 つの大問からなり、それぞれ小問があり合計で 40 問あります。大問は、テーマ史（8 問）・古代・中世・近世（各 7 問）・近現代（11 問）で構成されています。

高等学校の『日本史探究』の教科書の内容をしっかりと学習していれば解くことができる問題となっていますが、用語集や参考書で学習を深めておくことも大切です。

出題内容等

2 月 1 日

- 第 1 問 古代から近現代の財政と税制をテーマとするが、間接的に関係する問題も含む。
- 第 2 問 原始・古代の東北・北海道、古代の編纂物、平安時代の政変に関する問題。
- 第 3 問 院政期の仏教、建武の新政、下剋上に関する問題。写真選択、史料読解問題もある。
- 第 4 問 徳川家康、江戸時代の諸産業、19 世紀前半の対外政策に関する問題。
- 第 5 問 幕末・明治期の出来事、アジアに関わる出来事、戦後の日米関係に関する問題。

2 月 2 日

- 第 1 問 政治拠点・宮都をテーマとするが、間接的に関係する人物・出来事なども含む。
- 第 2 問 原始・古代の信仰、古代の太宰府、国風文化に関する問題。写真判読問題もある。
- 第 3 問 平氏の台頭と平氏政権、得宗専制政治、室町時代の産業と経済に関する問題。
- 第 4 問 兵農分離、江戸時代の三家、『海国兵談』（史料）と寛政の改革に関する問題。
- 第 5 問 山県有朋、近現代の女性に関する年表、サンフランシスコ平和条約に関する問題。

2 月 3 日

- 第 1 問 建築物・建造物をテーマとするが、間接的に関係する人物・出来事なども含む。
- 第 2 問 原始時代の生活・社会、古代の貨幣・法令、古代の軍事力に関する問題。
- 第 3 問 延久の荘園整理令、執権政治の展開、戦国時代の社会経済と文化に関する問題。
- 第 4 問 歌舞伎と浄瑠璃、「鎖国」と四口、田沼政治に関する問題。図版判読問題もある。
- 第 5 問 日米和親条約、近現代の教育史と出来事、社会主義政党などに関する問題。

2 月 4 日

- 第 1 問 古代からの日朝関係をテーマとするが、間接的に関係する問題も含む。
- 第 2 問 ヤマト政権と古墳、奈良時代の女性天皇、摂関政治に関する問題。史料読解も。
- 第 3 問 源平の争乱、南北朝の動乱、足利義政と応仁の乱に関する問題。
- 第 4 問 全国統一と戦乱の終息、徳川綱吉の時代、江戸時代の交通・運輸に関する問題。
- 第 5 問 幕末・維新の対外関係、近現代の通貨体制、細川連立政権に関する問題。

2026 年度 一般選抜 「世界史」 出題意図

建学の理念や本学のアドミッションポリシーを踏まえ、幅広い視野で隣接した学問分野に興味関心を持ち、国や地域を越えて異なる価値観を持つ人たちとコミュニケーションができる力を備えた学生を選抜できるよう、以下の点に留意した問題となっています。

世界の歴史の大きな枠組みと展開についての理解度や多面的・多角的な歴史的思考力を判断する内容を幅広く出題するよう配慮しています。

内容は、高等学校で学習する世界史探究の知識・技能を中心に、各試験日とも、世界の諸地域について政治、経済、社会、文化の各分野および古代から現代までの各時代をバランスよく取り上げるよう留意しています。

地図、史料、図版、年表、グラフ等の資料を読み取る問題を各試験日に偏りなく設け、設問数は大問題を 8 問、さらにそれぞれの小問を 5 問とし、計 40 問からなる構成となっています。

出題内容等

2 月 1 日

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------|
| 第 1 問 | 古代ローマ史 | 第 2 問 | 古代中国史 |
| 第 3 問 | 11 世紀から 13 世紀にかけての東南アジア史 | | |
| 第 4 問 | 16 世紀から 18 世紀にかけての西アジア史 | | |
| 第 5 問 | 18 世紀のフランス史 | 第 6 問 | 19 世紀のオーストリア |
| 第 7 問 | 16 世紀以降のラテンアメリカ史 | 第 8 問 | 第二次世界大戦後のソ連・ロシア |
- (その時代の他の地域の動き、その地域の歴史の流れを問う設問を含む)

2 月 2 日

- | | | | |
|-------|----------|-------|---------------------------|
| 第 1 問 | 古代オリエント史 | 第 2 問 | 9 世紀から 11 世紀のイスラーム世界 |
| 第 3 問 | 中世ヨーロッパ史 | 第 4 問 | 16 世紀から 17 世紀にかけての西ヨーロッパ史 |
| 第 5 問 | 明代の中国史 | 第 6 問 | 19 世紀のフランス史 |
| 第 7 問 | 第一次世界大戦 | 第 8 問 | 第三世界の動向 |
- (その時代の他の地域の動き、その地域の歴史の流れを問う設問を含む)

2 月 3 日

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 第 1 問 | 古代ギリシア史 | 第 2 問 | 古代アフリカ史 |
| 第 3 問 | 唐代の中国史 | 第 4 問 | 13 世紀から 16 世紀にかけての東南アジア史 |
| 第 5 問 | 17 世紀から 18 世紀にかけてのドイツ史 | 第 6 問 | 近代の東アジア史 |
| 第 7 問 | 戦間期のアメリカ | 第 8 問 | 1970 年代以降の世界 |
- (その時代の他の地域の動き、その地域の歴史の流れを問う設問を含む)

2 月 4 日

- | | | | |
|-------|-------------|-------|--------------------------|
| 第 1 問 | 古代インド史 | 第 2 問 | 8 世紀から 13 世紀にかけてのイスラーム世界 |
| 第 3 問 | 中世キリスト教史 | 第 4 問 | 清代の中国 |
| 第 5 問 | 18 世紀のイギリス史 | 第 6 問 | 近代エジプト史 |
| 第 7 問 | 19 世紀のアメリカ史 | 第 8 問 | 核兵器の歴史 |
- (その時代の他の地域の動き、その地域の歴史の流れを問う設問を含む)

2026 年度 一般選抜 「政治・経済」 出題意図

キリスト教精神を礎に教育を通してグローバルな社会に貢献する人を育成するという建学の理念を踏まえ、政治や経済の基礎的・基本的概念や理論・考え方を活用して文章や資料を的確に読み解きながら考察できる力を求めています。

高等学校学習指導要領に則り、現代における政治・経済・国際関係などについての理解や公正な判断力を問う内容を基準として、入学までに身に付けてきた学力が本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力か判断できるよう作成しています。

大問は全 5 問で、計 40 問からなる構成となっています。

出題内容等

2 月 1 日

- 第 1 問 民主主義の基本原理
- 第 2 問 政党政治と選挙制度
- 第 3 問 経済社会の形成と変容（文献資料問題あり）
- 第 4 問 労使関係と労働市場（統計資料問題あり）
- 第 5 問 発展途上国の経済と経済協力（時事問題あり）

2 月 2 日

- 第 1 問 基本的人権と新しい人権（文献資料問題・時事問題あり）
- 第 2 問 地方自治（統計資料問題あり）
- 第 3 問 現代の企業と中小企業
- 第 4 問 環境保全と資源・エネルギー問題
- 第 5 問 国際政治の動向

2 月 3 日

- 第 1 問 日本国憲法の基本原理
- 第 2 問 司法制度（時事問題あり）
- 第 3 問 財政と金融の仕組み
- 第 4 問 社会保障制度（文献資料問題・統計資料問題あり）
- 第 5 問 国際経済の仕組み

2 月 4 日

- 第 1 問 平和主義と安全保障（統計資料問題あり）
- 第 2 問 国会と内閣
- 第 3 問 市場機構と景気変動
- 第 4 問 戦後の日本経済と諸課題（時事問題あり）
- 第 5 問 国際法と国際社会の組織化（文献資料問題あり）

第 1 問 (物理)

本問は、身近な題材として、日常用いる秤(はかり)や、釣りに使う浮きを想定しています。中学校で学んだ浮力と、高校で学んだ物理学の考え方を結びつけ、筋道立てて考察できるかを問う問題にしています。特に、浮力の考え方を土台として、力のつり合い、運動方程式、単振動へと発展的に結びつけて考えられるかが問われています。

問 1 では、空気にも質量があること、空気中では空気による浮力のために秤で量れる垂直抗力の大きさが変化するとの理解を問題にしました。浮力を単なる公式ではなく、現実の計測と関連づけて理解していれば、容器内の空気の質量を量る方法も考えられます。

問 2 では、液体に浮く円筒形の浮きについて、まず静止時のつり合いを浮力と重力から考えるようにしています。重力は一定であるのに対して、浮力は液面下の体積(すなわち液面下の長さ)に依存します。その性質が理解できれば、つり合いの条件を求めることができ、さらに、わずかにずらしたときに働く力が変位に比例して元に戻ろうとすることに気づけるでしょう。変位に比例した復元力が作用すれば、その運動は単振動になります。中学校で学んだ内容である浮力が、復元力を生み、単振動という高校物理の重要な運動につながることを理解が問われています。

さらに、液体の密度や浮きの長さを変えたときに周期がどう変わるかを考察することで、式を機械的に導くだけでなく、各物理量が運動にどのような影響を与えるか、解釈できる力も評価することにしました。

第 2 問 (物理)

本問は、電流・電圧・抵抗の関係を、既知の公式としてではなく、金属中の自由電子の運動(微視的描像)から段階的に導く過程を通して、物理量の定義、近似モデルの扱い、導出された式の解釈ができるかを問う。特に、電場による加速と衝突による減速の釣り合いから定常状態(終端速度・ドリフト速度)が生じることを理解し、そこから電流を表式化してオームの法則の成立条件を説明できるかを評価する。

問 1 : 文章で与えられた状況を読解し、必要な物理法則と定義を用いて、電流を微視的量で表し、最終的に [数式] と [数式] の比例関係に到達できるかを問う。

(ア) ~ (ウ) では、電流の定義(単位時間あたりに断面を通過する電気量)と、自由電子数密度・断面積・速度から通過電気量を数え上げるという、流量としての電流の確認をする。

(エ) ~ (カ) では、電場中の電子が受ける力と運動方程式を立て、衝突の効果を 抵抗力 [数式] としてモデル化したときに、加速度が時間とともに減少して定常状態に至ること(終端速度の存在)を理解しているかを問う。

(キ) 以降では、終端速度を用いて電流を表し、電位差 [数式] と電流 [数式] の間に比例関係が得られることから、オームの法則が微視的モデルから導けることを確認する。あわせて、その比例定数が材料・形状・キャリア密度・比例係数 [数式] などに依存する量として現れ、抵抗の意味付けができるかを問う。

問 2 : 下線部(A)で述べられた運動の特徴を、適切なグラフとして表現し、理由を説明できるかを問う。抵抗力 [数式] を仮定した場合、速度の増加とともに抵抗力が増し、合力が減少するため、加速度は次第に小さくなり、速度は一定値(終端速度)に漸近する。したがって、[数式]-[数式] グラフでは、初期に急増し、その後増加が緩やかになって終端速度に近づく曲線となることを、文章内容と整合する形で示せるかを評価する。ここでは、単に形を描くだけでなく、「なぜ直線ではないか」「なぜ一定値(あるいは 0)に近づくか」を、説明できるかを重視する。

第3問（物理）

量子分野における重要な発見、「光電効果」についての問題です。内容としては標準的であり、教科書・授業の内容が理解できていれば問題なく正答できるものです。

- 問1: 箔検電器について、手で触れたときや帯電棒を離れたときの電荷の移動についての問題です。手で触れたときや帯電棒を離れたときに電荷がどう移動するかを理解していれば問題なく解答できます。
- 問2: 問1の状況での箔の振る舞いについて単語で説明する問題です。電荷の移動と合わせて、電荷間の力の関係を理解していれば解答できます。
- 問3: 自分のことばで「光電効果」についてまとめる問題です。問1・問2が誘導になっています。基礎事項が身についていれば問題なく正答できます。
- 問4: これ以降は光電効果についてのミリカンの実験をもとした問題です。ここでは、光電効果に関係した基本的な語彙や性質が身についているかを確認しています。
- 問5: 光電効果がどのような特異な振る舞いを示したかについて聞いています。光電効果の本質に関わる問題であり、その重要性を理解していれば問題なく解答できます。
- 問6: 実験結果を通して、プランク定数を実際に計算する問題です。グラフの持つ意味を正しく理解できていれば特に難しい問題ではありません。

第4問（化学）

物質の構成と変化に関する基礎的な知識を問う問題です。

- 問1: 元素の周期性について、理解度を測るための出題です。
- 問2: 分子の電子式と形について、理解度を測るための出題です。
- 問3: 化学反応式とその量的関係について、理解度を測るための出題です。
- 問4: 化学反応により発生した気体の体積について、理解度を測るための出題です。
- 問5: 中和滴定を行う際に使用する器具について、理解度を測るための出題です。

第5問（化学）

物質の状態や変化および無機物質についての基本的知識の有無と理解度、それらの知識に基づいた化学的な思考力を判定しています。

- 問1: 化学変化に伴うエンタルピー変化の表し方、発熱量と物質量の関係、ヘスの法則の理解度を判定します。
- 問2: 金属イオンを含む水溶液の系統分析についての理解度を判定します。

第6問（化学）

有機化学の基礎的事項に関する理解度を問う出題です。

- 問1: 基本的な有機化合物の構造式を正しく記述する能力を判定しています。
- 問2: 炭化水素の分類と、有機化合物の代表例の一つであるアルコールの化学的性質に関して、基礎知識の有無を判定しています。
- 問3: 有機化学反応のうち縮合反応の代表例としてエステル化を、置換反応の代表例としてニトロ化を取り上げ、それらの理解度を判定しています。
- 問4: 燃焼法による有機化合物の元素分析についての理解度を判定しています。

第 7 問（生物）

生物の個体群がどのように調整されているかについての問題です。

問 1～4 は、生物の個体群の成長や変動に関する基礎的な知識・考え方を問う問題です。

問 5～6 は、個体数の推定に関する基礎知識とその計算方法を問う問題です。

問 7～9 は、文章と表から寄生や捕食による死亡がどのように生じているか理解する読解力、妥当な数式を組み立てる論理的な洞察力を問う問題です

第 8 問（生物）

遺伝子の連鎖と組換えに関する基本用語の理解を確認するとともに、観察データからの論理的解析能力を確認するための問題です。

問 1: 連鎖・組換えの基本概念を理解しているかを確認する問題です。

問 2: 具体的な数値から組換え価を計算し、その値の解釈を通して二重乗り換えという現象を理解しているかを確認する問題です。

第 9 問（生物）

動物の発生は古くから人々の興味を引き、観察と事象の記述、実験が行われてきました。現在では発生過程における遺伝子の働きといった分子的メカニズムの解明に多くの研究者が取り組んでいます。

問 1、問 2 は、基本的な知識を確認する問題です。

問 3 は観察した現象からその背景にある仕組みを考察する問題です。ここでは遺伝子の転写・翻訳といった基礎知識も求めています。

問 4 は動物の多様性と系統関係についての問題です。発生と進化には深いかかわりがあることを意識してもらいたく出題しました。

高等学校学習指導要領の内容を踏まえるとともに、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるような問題となっています。高等学校の科目「物理基礎」・「物理」が出題範囲ですから、まずは、教科書内容全般をしっかりと学習することが大切です。

大問は 5 問から構成され、その内容は、力学・熱学・波動・電磁気・原子です。各大問に 4～6 問の小問があります。前半は基礎を問う問題、後半は応用的な問題です。簡単な三角関数を使いこなせることも必要です。

出題内容等

第 1 問

力学：力学エネルギー保存法則、運動量保存則を円運動に関連させ、考えさせる問題です。

毎年出題される、力学的エネルギー保存の法則、運動量保存の法則（衝突を含む）等の理解は必須学習です。問われている物体の運動をきちんと把握して、その時どのような力が物体に働いているかを読み取り、運動方程式を立てることができるかが重要です。

第 2 問

熱学：状態変化で各要素の変化を理解しているかを問う問題です。

毎年出題される状態変化（等圧・等積・等温、断熱）に伴う、圧力・体積・絶対温度の変化と熱エネルギー・内部エネルギーの流入・流失に関して“熱学の第一法則”や“状態方程式”等を使った問題への対応が求められます。それぞれの状態変化の特徴を理解していることが問われています。

第 3 問

波動：光の屈折の応用問題で屈折率や三角関数の知識も問われた問題です。

年によって異なりますが、波・音波・光の基本的な内容が出題されることが多く、教科書の内容をしっかりと理解することが大切です。ドップラー効果については音波だけでなく、波・光についても問われることがあります。

第 4 問

電磁気：電磁誘導に関した応用（自己誘導・相互誘導）問題です。

電磁気は出題範囲が広いので万遍なく学習することが重要です。特に電流と磁場との関係（相互作用）は重要で力学との関連性が出てきますから、十分な学習が求められます。磁場の強さ・磁束密度・磁束などの定義や相互関係を把握しておくことが大切です。回路の問題では、回路の各部にかかる電圧や流れる電流に留意することが基本です。

第 5 問

原子：“原子崩壊（ β 崩壊）”に伴う“半減期”を使った問題です。

年によって異なりますが、光の粒子性・電子の波動性・原子核の分野が出題されます。それぞれの分野の発見に至る歴史的実験やその結果を理解しておくことが大切です。特異な“用語”にも注意が必要です。

高等学校学習指導要領の内容を踏まえ、多くの教科書に記載があり、いずれの高等学校でも取り扱われる内容から出題されます。基本的な知識の量だけでなく思考力・判断力・表現力等をみる内容も含んでいます。また、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるよう配慮しています。

出題内容は全範囲にわたり無機と有機のバランスが取れるよう心掛け、物質の種類や実験項目については、教科書で確実に取り上げられているものを基本としています。計算問題は本質的な推論・考察に時間が使えるように数値を工夫し、グラフ・図などを利用し理科としてのものの見方・考え方を問う問題も出題されます。

出題内容等

第 1 問

化学基礎の範囲からの出題です。混合物の分離精製方法、原子構造と周期表、酸と塩基の性質から基礎知識を習得しているかを確認します。また、物質質量に関する計算、酸化還元滴定計算、実験結果から反応物の濃度を推定する問題により情報解析能力と考察力を確認します。

第 2 問

物質の状態に関する問題です。イオン結晶格子、気体の圧力と温度、理想気体と水蒸気の混合気体、ヘンリーの法則、浸透圧について基礎的な知識の定着を確認し、簡単な計算やグラフの判別問題により理解度と考察力を確認します。

第 3 問

化学反応の機構や化学エネルギーに関する問題です。結合エネルギー、ファラデーの法則についての計算問題で考察力・判断力を確認します。また、反応速度、化学平衡、平衡の移動についての基礎的な知識の定着を確認します。

第 4 問

無機物質に関する問題です。周期表、無機非金属元素であるケイ素、気体の発生方法、アルミニウムの工業的製法について基礎的な知識の定着を確認します。また、金属イオンの系統分離について基礎的な知識の有無とともに考察力・判断力を確認します。

第 5 問

有機化合物についての問題です。有機物の一般的な性質、異性体数、性質からの構造推定、代表的な化合物の反応性、有機物の実験的な合成方法、天然及び合成高分子化合物の原料と用途などについて基礎的な知識の有無とともに考察力を確認します。

高等学校学習指導要領の内容を踏まえ、高等学校の授業を通して学んできたことが理解できているかを確認するとともに、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるよう配慮した問題となっています。

高等学校での普段の授業でしっかり学んできたかどうかを測り、あわせて、実験結果を分析する力や、簡単な計算で自然の事象を数値化する力、その数値・データを分析・判断する力を試す問題となっています。

出題内容等

第 1 問

生体防御の仕組みを理解しているかを確認する問題です。あわせて、免疫グロブリンには抗原接合可能部位が 2 か所あることを、簡単な計算で確認することを通して、理解できているかを確認します。

第 2 問

タンパク質の特性が理解できているかを確認する問題です。特に、カタラーゼの実験を通して、酵素の特性を理解できているかを確認します。

第 3 問

植物の代謝、特に光合成に関連することが理解できているかを確認する問題です。あわせて、気体の出入りと植物の生長について、図を読み取る力・簡単な計算を通して、分析する力を確認します。

第 4 問

ヒトの感覚器（刺激受容器官）である眼を中心に、刺激受容のしくみについて理解できているかを確認する問題です。また、その応用として、神経の異常が視野に及ぼす影響を予測できるかを確認します。

第 5 問

動物の発生と遺伝子の発現に関わる物質について、理解できているかを確認する問題です。特に卵割の基本的な知識と、組織の誘導・分化の仕組みを理解できているかを確認します。

2026 年度 一般選抜 「数学」(2 月 1 日) 出題意図

高等学校学習指導要領の内容を踏まえ、高等学校の授業で学んできた基本的なことが理解できているかどうかを確認するとともに、本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力について判定できるように配慮しています。まずは、教科書の内容をしっかりと学習することが大切です。また、思考過程を順序立てて表現することを心がけてください。

出題内容等

第 1 問

- (1) 与えられた条件を満たす等比数列に関する問題です。
- (2) 赤玉と白玉の入った袋から玉を取り出す確率を求める問題です。
- (3) 最大値の条件を用いた 2 次関数に関する問題です。

第 2 問

- (1) 対数の近似値を用いて計算する桁数に関する問題です。
- (2) 円の接線の方程式を求める問題です。

第 3 問

- (1) 積分で表示された関数の極値を求める問題です。
- (2) 積分を含む等式を満たす関数に関する問題です。

2026 年度 一般選抜 「数学」(2 月 2 日～2 月 4 日) 出題意図

数学における概念や原理・法則の体系的な理解度や基本的な計算力を判断する内容を基準として作成された問題となっています。入学前に身につけてきた学力および本学のアドミッションポリシーにふさわしい学力を判断できるよう配慮しています。

各日とも、第 2 問～第 4 問については、最終結果を導くプロセスで必然的に求める数値について、多くの質問箇所を設けることで、きめ細かく学力を評価できるように配慮しています。

出題内容等

2 月 2 日

- 第 1 問 小問集合(第 2 問から第 4 問で扱わない内容についての独立した基本的な問題 5 題)
式の値の計算、相加相乗平均に関する問題、極地の存在条件、数列の漸化式、図形の性質(メネラウスの定理)
- 第 2 問 三角関数方程式の解についての問題
- 第 3 問 数え上げ、グループ分けをテーマとした問題
- 第 4 問 2 つの円の位置関係、2 つの円の交点を通る直線、弦の長さに関する問題

2 月 3 日

- 第 1 問 小問集合(第 2 問から第 4 問で扱わない内容についての独立した基本的な問題 5 題)
2 次方程式(指数関数・対数関数との関連問題)、剰余の定理、2 直線のなす角、三角関数の求値問題、反復試行の確率
- 第 2 問 絶対値記号のついた 2 次関数の問題。直線との交点の個数、最大・最小に関する問題。文字の置き換えに関する問題
- 第 3 問 群数列、数列の和に関する問題
- 第 4 問 円と接線および直線との交点の問題、線分の長さの比に関する問題

2 月 4 日

- 第 1 問 小問集合(第 2 問から第 4 問で扱わない内容についての独立した基本的な問題 5 題)
絶対値記号がついた 1 次関数の最小値、条件付きの順列の問題、3 点を通る円の方程式、数列の和の最大、余弦定理
- 第 2 問 2 つの 2 次関数の接線や面積に関する問題
- 第 3 問 特定の規則のもとに行われるゲームに関する確率や期待値の問題
- 第 4 問 指数関数、対数関数に関する問題。桁数等対数計算についての基本的な問題